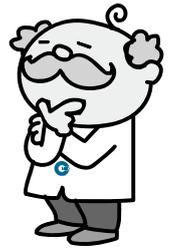


こんにちは!

村立東海病院であ



食事の後に、検査を受けると…

検査結果に影響が出てしまうの？

医師が病気を診断し治療するためには、まず初めに患者さんの体の状態を知る必要があります。その方法の一つとして、血液検査や尿検査があります。しかし、これらの検査は食事や運動、服薬などの後に受けると、さまざまな要因によって検査結果に影響が出てしまいます。今回は、その中で患者さんからの質問が最も多い“食事の影響”についてお話しします。

●食後の検査では、さまざまな項目の数値が変わってしまいます

ケース1 血液検査



数値が上昇!

検査項目

代表的なものとして

- 血糖値
- 中性脂肪
- インスリン

食べた物が消化・吸収されると、検査結果の数値が変動する項目があります。代表的なものは、「血糖値」、「中性脂肪」、「インスリン」です。

「血糖値」や「中性脂肪」は、食べ物に含まれる糖や脂肪が体内に吸収され、血液中に移動することにより、検査結果の数値が高くなります。また、飲酒でも「中性脂肪」の数値は高くなりますが、これは、アルコールが分解されて生じるアセトアルデヒドという物質が脂肪の分解を抑え、同時に「中性脂肪」の合成を高めるためです。

また、「インスリン」は膵臓で作られる物質で、「血糖値」を下げる働きをしています。食後に「血糖値」が高くなることで「インスリン」の分泌も多くなり、検査結果の数値が高くなります。

ケース2 尿検査



陽性が陰性に!

検査項目

ビタミンC摂取で

- 尿糖
- 潜血
- ビリルビン
- 亜硝酸塩

食物に含まれる物質が検査に影響して、誤った結果が出てしまうことがあります。例えば、ビタミンCを過剰に摂取した後に尿検査を受けると、水に溶ける性質を持つビタミンCが尿の中に排出されることで、検査項目の「尿糖」、「潜血」、「ビリルビン」、「亜硝酸塩」に影響して、本来は「陽性(+)」となるはずの結果が「陰性(-)」となってしまうことがあります。これを「偽陰性」といい、正しい検査結果が得られていないことになります。

過剰なビタミンCの摂取とは、果物を食べたくらいでは問題になりませんが、日ごろからサプリメント等でビタミンCを摂取している方は、検査を受ける際に注意が必要です。

●これが大切! 誤った検査結果で診断を受けないためには

検査結果が正常かどうかを判断する「基準値」は、健康な人が空腹の状態です。しかし、服薬の都合や急ぎよ検査を受けることになる場合もあるので、必ずしも空腹の状態です。しかし、服薬の都合や急ぎよ検査を受けることになる場合もあるので、必ずしも空腹の状態です。検査前に食事をして

先生。あの、朝ごはん食べてしまったのですが…



臨床検査室 助川 裕樹

【問い合わせ】村立東海病院(☎282-2188)、福祉保険課地域医療担当(☎287-0899)